

2018 年度 早稲田大学大学院教育学研究科修士課程入学試験問題訂正

《一般・外国学生・専門科目》 問題冊子 4 ～ 5 ページ

【国語教育専攻】

【選択三】 二 (P.4)

＜誤＞次の(E)～(K)のうち、三題を選択して簡潔に（解答用紙八行以内）説明しなさい。

＜正＞次の(E)～(K)のうち、三題を選択して簡潔に（一題につき解答用紙八行以内）説明しなさい。

【選択四】 二 (P.5)

問題説明文

＜誤＞次の(E)～(M)のうち、三題を選択して簡潔に説明せよ。

＜正＞次の(E)～(N)のうち、三題を選択して簡潔に説明せよ。

選択肢

＜誤＞(K) 方違え

＜正＞(N) 方違え

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題【専門科目】【国語教育専攻】

解答上の注意

- 一、国語教育専攻の入学試験問題は、〔専門科目・選択〕（配点60％）と〔専門科目・共通〕（配点40％）とに分かれています。
- ①「専門科目・選択」は、出願時に届け出た研究指導・指導教員の専門分野により、左記の表の「解答すべき問題」（選択一～選択八）を解答しなさい。なお、「解答すべき問題」以外を解答した場合、当該解答は「0点」となります。

志願票に記入した 研究指導名		志願票に記入した 指導希望教員名	「専門科目・選択」で 解答すべき問題
国語科教育研究指導	幸田 国広	選択一 国語教育	
国語科教育研究指導	町田 守弘		
日本語学研究指導	松本 正恵	選択二 日本語学（日本語教育を含む）	
国文学研究指導	松本 直樹	選択三 古典文学 I 上代文学	
国文学研究指導	新美 哲彦	選択四 古典文学 II 中古文学	
国文学研究指導	福家 俊幸	選択五 古典文学 III 中世文学	
国文学研究指導	大津 雄一		
国文学研究指導	田淵 句美子	選択六 古典文学 IV 近世文学	
国文学研究指導	中嶋 隆	選択七 中国古典文学	
国文学研究指導	内山 精也		
国文学研究指導	堀 誠	選択八 近代文学	
国文学研究指導	石原 千秋		
国文学研究指導	金井 景子		
国文学研究指導	和田 敦彦		

②「専門科目・共通」は、出願時に届け出た研究指導・指導教員の専門分野により、左記の表の「解答すべき問題」（共通Aか共通Bのいずれか）を解答しなさい。なお、「解答すべき問題」以外を解答した場合、当該解答は「0点」となります。

志願票に記入した 研究指導名	志願票に記入した 指導希望教員名	「専門科目・共通」で 解答すべき問題
日本語学研究指導	松本 正恵	共通A 日本語学（日本語教育を含む）
国文学研究指導	石原 千秋	共通B 近代文学

- 二、解答用紙は、「問題番号」ごとに一枚使用すること。全ての解答用紙の所定欄に、受験番号・氏名・研究指導名・指導教員名、ならびに「問題番号」（例「選択八」・「共通A」など）を必ず記入すること。
- 三、解答用紙のホッチキスは、はずさないこと。また、無解答の解答用紙でも提出すること。
- 四、問題用紙は「十三枚」（本ページ含む）、解答用紙は「四枚」です。必ず枚数を確認すること。

以上

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

「選択一」 国語教育

※解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

一、次のA～Hのうちから三題を選び、それぞれ簡潔に説明しなさい。

- | | |
|---------------|----------------|
| A 学力の三要素 | B 主体的・対話的で深い学び |
| C 常用漢字表 | D 一読総合法 |
| E 言葉による見方・考え方 | F コンポジション理論 |
| G サクラ読本 | H 『山びこ学校』 |

二、次のI～Nのうちから二題を選び、具体的に論じなさい。

- | |
|--------------------------|
| I 筆者想定法のねらい |
| J 昭和二六年版学習指導要領（試案）の歴史的位置 |
| K PISA型読解力の特徴 |
| L 時枝誠記の国語教育論の特徴 |
| M センテンスメソッドの歴史的意義 |
| N 大学入学共通テストの記述式問題のねらい |

三、中教審答申（平成二八年一二月）では、次のような課題が指摘されているが、このことについて、あなたの考えを述べなさい。

高等学校の国語教育においては、教材の読み取りが指導の中心になることが多く、国語による主体的な表現等が重視された授業が十分行われていないこと、話合いや論述などの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習が十分に行われていないこと、古典の学習について、日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらないこと（一二七頁）

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科
 修士課程 一般・外国学生入学試験問題
 「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択二〕 日本語学

一 次のA～Lの事項のうちから四題を選び、説明しなさい。

A	契沖	B	『ロドリゲス日本大文典』	C	とりたて
D	開合	E	漢文訓読文	F	方言区画
G	語種	H	ソシユール	I	あいづち
J	音便	K	受給・受益の表現	L	T P R

二 次のM～Oのうちから一題を選び、具体的に論じなさい。

- M 係り結びの機能とその崩壊過程について
 N 多義語と同音・同訓異義語の境界について
 O 日本語研究・日本語教育における談話分析研究の有用性について

三 日本語学とはどのような学問か。専門外の人にもわかりやすいように、具体例を交えながら、学問領域・研究対象・研究方法・研究の意義等について多角的に述べなさい。

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

【選択三】 上代文学問題

一、次の(A)～(D)のうち、二題を選択して論述しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

(A) 『古事記』の出雲神話

(B) 「古老相伝旧聞異事」

(C) 『日本書紀』の天地開闢神話

(D) 額田王

二、次の(E)～(K)のうち、三題を選択して簡潔に(解答用紙八行以内)説明しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

(E) 大物主神

(F) フロチ退治神話

(G) 雄略天皇

(H) 上代特殊仮名遣い

(I) 高橋虫麻呂

(J) 黄泉戸喫

(K) 行路死人歌

三、「日本」の文学・文学史を研究することの意義について、あなたの考えを簡潔に(解答用紙一〇行以内)述べなさい。

(上代文学問題、以上)

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択 四〕 古典文学（Ⅱ） 中古文学

解答に際しては選択した問題の記号を明記すること。

一、次の(A)～(D)のうち、二題を選択して論述せよ。

- (A) 一条天皇の後宮文化
- (B) 平安時代の仮名日記の特質
- (C) 古注釈書について
- (D) 物語研究の手法とその意義

二、次の(E)～(M)のうち三題を選択して、簡潔に説明せよ。

- (E) 『古今和歌集』 (F) 『とりかへばや物語』
- (G) 冷泉家流古注釈 (H) 草子地 (I) 漢文日記
- (J) 『更級日記』 (K) 『浜松中納言物語』
- (L) 『堤中納言物語』
- (M) 平安時代の文学における乳母

三、中古文学を学校教育で学ぶ意義とは何か、あなたの考えを述べよ。

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択五〕 古典文学 (Ⅲ) 中世文学

一、次の①～⑧の中から二題を選択して、詳しく論述しなさい。

- ① 説話文学の特質について
- ② 『平家物語』の延慶本および寛一本について
- ③ 末法思想、無常観と中世文学のかかわりについて
- ④ 『平家物語』教材化の歴史と教材化の可能性について
- ⑤ 天皇と和歌について
- ⑥ 勅撰和歌集と私家集について
- ⑦ 贈答歌の特質と展開について
- ⑧ 中世の女訓書について

二、次の①～⑩の中から三題を選択して、簡潔に説明しなさい。

- ① 太平記
- ② 宇治拾遺物語
- ③ 増鏡
- ④ 徒然草
- ⑤ 風姿花伝
- ⑥ たまきはる
- ⑦ 明月記
- ⑧ 建礼門院右京大夫集
- ⑨ 源承和歌口伝
- ⑩ 玉葉和歌集

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

【選択六】 古典文学（Ⅳ） 近世文学

一、井原西鶴・松尾芭蕉・近松門左衛門・上田秋成・鶴屋南北・山東京伝・大田南畝・滝沢馬琴の中から、一人を選び、その文芸の特徴と文学史上の位置について、自由に論じなさい。

二、次の（１）～（７）の中から、一題を選択し、論述しなさい。

- （１）井原西鶴の「町人物」の概要と特徴について述べよ。
- （２）芭蕉俳諧における旅の意義について述べよ。
- （３）近松門左衛門「世話物」浄瑠璃の概要と特徴について述べよ。
- （４）大田南畝の文芸活動と寛政改革の影響について述べよ。
- （５）山東京伝の文芸活動と寛政改革の影響について述べよ。
- （６）鶴屋南北の代表作をあげ、その特徴について述べよ。
- （７）上田秋成の読本の概要と特徴について記せ。

三、次の（８）～（１６）の中から、三題を選択し、簡潔に説明せよ。

- （８）竹斎 （９）好色五人女 （１０）男色大鑑
- （１１）猿蓑 （１２）曾根崎心中 （１３）東海道四谷怪談
- （１４）雨月物語 （１５）金々先生栄花夢 （１６）南総里見八犬伝

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択七〕 中国古典文学 問題

〔一〕 次の作品は李白の「春思」という詩である。この詩を読んで、設問に答えなさい。

① 燕草如碧絲 秦桑低綠枝

② 當君懷歸日 是妾斷腸時

③ 春風不相識 何事入羅幃

注・燕 現在の首都、北京一帯の地。

・秦 現在の陝西省西安一帯の地。西安は唐の都長安。

〔設問一〕 右の李白の詩は、題材的には 詩と呼ばれるジャンルに分類される。空欄に入るもつとも相応しい語を漢字二字（楷書）で記しなさい。

〔設問二〕 傍線①「燕草……綠枝」は、燕と秦の地域差を詠じた句である。どのような違いを詠じているのか簡潔に説明せよ。

〔設問三〕 傍線②「當君……腸時」を、書き下し文に改めるか、現代中国語の発音記号（ピンイン）で書くか、いずれかを選んで答えなさい。

〔設問四〕 傍線③「春風……羅幃」を、口語訳しなさい。

〔設問五〕 作者李白とはほぼ同一世代の詩人を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 白居易 イ 賈島 ウ 劉希夷 エ 孟浩然 オ 韋應物

〔二〕 次のア～エの中から一つを選択し、その記号を解答欄に記した上で、説明ならびにあなたの考えを記しなさい。

ア 中唐の文学史的意義について

イ 中国田園詩の系譜について

ウ 中国文学史における「講史」について

エ 日中比較文学の方法について

オ 「漢文」教育における教材の問題点について

〔三〕 次の（Ａ）～（Ｊ）の中から三つの項目を選び、その記号を解答欄に記した上で、それぞれの文学史ないしは文化史的意味を中心に説明しなさい。

（Ａ）『詩経』

（Ｂ）六書

（Ｃ）「離騷」

（Ｄ）「鶯鶯伝」

（Ｅ）元輕白俗

（Ｆ）唐宋古文

（Ｇ）『滄浪詩話』

（Ｈ）『三国志演義』

（Ｉ）明七子

（Ｊ）胡適『白話文学史』

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

「選択八 近代文学」

一 日本の近代文学を研究する意義、方法について、あなたの考えるところを述べなさい。
二次の(A)と(E)の中から一題を選択して論じなさい。

- (A) 政治小説について
- (B) 自然主義における描写について
- (C) 「小説の筋」論争について
- (D) 私小説について
- (E) ポスト・コロニアル批評について

三 次の(A)と(G)の中から三題を選択して説明しなさい。
(「」は作品名、『』は雑誌名を示す)

- (A) 尾崎紅葉
- (B) 田村俊子
- (C) 『青鞥』
- (D) 『戦旗』
- (E) 「宣言一つ」
- (F) 「文字禍」
- (G) 「伊豆の踊子」

【注意】問題一と問題二・三とは、別々の解答用紙を用いて解答しなさい。

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
「専門科目・共通」 【国語教育専攻】

〔共通A〕 日本語学（含日本語教育）松木正恵

次の表は、佐治圭二『日本語の文法の研究』（ひつじ書房 一九九二）第二章「述語の構造と文の成分」第二節「動詞述語の詞部分」に掲載されている表である。この表は、接尾語・補助動詞・補助形容詞などがどのような動詞につくのか、つかないのかを○×等で示したものである。この表を見て、後の問いに答えなさい。

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題

「専門科目・共通」 【国語教育専攻】

問1 表の出典として示した、第二節「動詞述語の詞部分」の「詞」とは何か。対立する用語を明示したうえで、それぞれについてわかりやすく説明しなさい。

問2 表中の傍線部A「ヴォイス」・B「アスペクト」について説明しなさい。

問3 下線部C「間接受身」とはどのような現象を言うか。表中の、間接受身が言える動詞を例として、具体的に説明しなさい。その際、○がついた直接受身が言える動詞との違いが明確になるように説明しなさい。また、×がついた動詞はなぜ受身が作れないのか、その理由についても述べなさい。

問4 下線部Dの「可能」について、○×の分布状況から、どのようなタイプの動詞なら「れる(られる)」をつけて可能の形にできると言えるか、一般的な原則を説明しなさい。また、ここで○がついていても、現代語では「れる(られる)」による可能形はもうあまり使わない動詞もある。それを具体的に指摘し、現代語で一般的に使われている可能の形を示しなさい。

問5 表中にEで示した部分は、動作相アスペクトの中でも、動作の終了にかかわる表現群である。○×の分布状況から、「～おわる」「～つくす」「～きる」「～てしまう」の意味の違いや使い分けの傾向について説明しなさい。

問6 下線部Fの「ている」は、つく動詞の性質によって、大きく二つの用法に分かれる。それぞれについて具体例を挙げて説明しなさい。また、「教わっている」の場合は、文脈・場面によって、先の二つの用法のどちらにも解釈が可能になる場合がある。具体的な文脈・場面を設定して、二つの用法の違いを説明しなさい。

問7 表中にGで示した「～てある」「～ておく」の使い分けについて、○×の分布状況を参考にして説明しなさい。

問8 表中にHで示した「～てくれる」「～てもらう」について、使い分けの原則を述べなさい。また、その原則から見ると、この表中の○×の分布状況に不自然なところがある。不自然な理由を明示しながら具体的に指摘しなさい。

問9 表全体を見て言える、述語の性質と述語の構造の関係や、各要素の承接の傾向等について、気づいたことを自由に述べなさい。

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科 修士課程 外国学生入学試験問題

【専門科目・共通】 【国語教育専攻】

【共通B】 近代文学（石原千秋）

次の文章は、光石亜由美『自然主義文学とセクシュアリティ』（世織書房、二〇一七・三）の一節である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

相馬御風が「世の所謂道德の及び到らぬ境にこそ其の人生はあるのである。その所謂道德の皮膚を破つて、そこに真の人生生活の実相を觀んとするのが即ち自然主義者の主張である」と主張するように、自然主義文学は、旧来の文学（硯友社文学、ロマン主義文学等）から自らを差別化し、既成の社会的・道德的価値観（旧習、道德、家制度等）に対して「旧套打破」、「現実暴露」という立場を對置させることによって、自らを定位してきた。また、文学史においても「新興文学」「革新運動」として語られてきた。

自然主義文学の評価については、研究史においても賛否両論分かれるが、「自然主義は当時の社会と激しく戦つたところの文学である。単に文学、単に作品であるに止らず、一個の文学運動であつた。新興社会の進歩的的人生觀を代表して、残存してゐる封建的道德、伝統、因習に対する文学上の破壊運動であつた。」というように、自然主義が文学の問題にとどまらず、社会に対しての「革新運動」、「破壊運動」として記述されたことが重要である。

「旧套打破」「現実暴露」という自然主義文学のラディカルさを印象づける象徴的な言説は、次の島村抱月のものであろう。「旧套打破」のアイテムとして最も破壊力があると認識されていたのが、〈性〉であつた。

赤裸々な人間、野性、醜描いてこゝに至れば、最も真に近づく、最も痛切である。（中略）肉感に近づくだけ、其の刺戟は真実になり、随つて痛切になる。

しかし、「暴露」される「現実」の内実は、なにも〈性〉的なものに特化されるわけではない。自然主義の命題——「醜惡な方面も、暗黒な事実も、不正な行為も、何もかもを描かねばならぬ」——は、貧困、偽善、暴力といった社会問題への広がり可能性を含みながらも、「肉慾も現実の一部である限り、人生の真を描かんための必要に応じては、その赤裸々な描写も止むを得ない」、「花袋の自然主義はゾラやモオパスサンから出た極端な物質的自然主義で、従来閑却されて来た人間の性慾方面の描写に殊に力を注いだ」というように、「現実の一部」である「肉慾（肉慾）」「性慾（性慾）」の方面が、同時代においてもクローズ・アップされ、「肉慾」「性慾」という言葉だけが一人歩きしてゆく。

おそらく、日本近代文学史上、初めて文学と「肉慾」「性慾」が問題となつた自然主義文学の時代、それはまさに、ミシェル・フーコーのいうところの文学における「セクシュアリティの近代」の到来であつたといえよう。

フーコーの「セクシュアリティの近代」の特質を簡略に記すと、次のようなものだ。近代は〈性〉を抑圧したのではなく、「性について語ることを、そしていよいよ多く語ることを、制度が爆り立て」た時代、権力は人々がどのよう欲望を抱いているのか多く語らせ、人々は〈性〉について積極的に「告白」することを求められた時代であり（性の抑圧仮説）、新しいテクノロジーである性科学は、〈性〉の正常／異常を規範化し、〈性〉を医学・国家による統制・管理の対象とした（性のテクノロジー）。さらに、「告白という社会的手続きと科学的言説性との間の相互干渉」によつて、〈性〉の中に、自らの内面、自己のアイデンティティを見出さざるをえないようなシステム（性の装置）が作り出される。〈性〉を語ることは自らの「内面」や「真実」を語ることとなり、セクシュアリティは権力に管理されるだけでなく、真理に結びついた特権的な領域となる。こうした、セクシュアリティという「内面」や「真実」を担保する特権的な領域を作り出したのが近代である。

柄谷行人「告白という制度」は、田山花袋「蒲団」を赤裸々な〈性〉の告白ではなく、告白すべき対象としての〈性〉を発見した作品であるとし、「蒲団」研究においても、セクシュアリティ研究においても、メルクマールとなつた論考である。

柄谷行人はまずフーコーの理論を援用して、「告白という形式、あるいは告白という制度が、告白されるべき内面、あるいは「真の自己」なるものを産出する」という。続けて、花袋「蒲団」において、告白すべき対象としての〈性〉が見出されたことを次のように説明する。

花袋の「蒲団」がなぜセンセーショナルに受けとられたのだろうか。それは、この作品のなかではじめて、「性」が書かれたからだ。つまり、それまでの日本文学における性とはまったく異質な性^②抑圧によつてはじめて存在させられた性が書かれたのである。この新しさが、花袋自身も思ひなかつた衝撃を他に与えた。花袋は「かくし

二〇一八年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
「専門科目・共通」 【国語教育専攻】

て置いたもの」を告白したというのだが、実際はその逆である。告白という制度が、そのような性を見出さしめたのだから。

柄谷のポイントは二つ——「告白という制度」が「告白されるべき内面」「真実の自己」を「産出」すること。そして「蒲団」によって「はじめて」、抑圧／管理される近代の〈性〉が書かれたということである。

柄谷の言うように、「蒲団」によって告白すべき「内面」「真実」としての〈性〉が発見されたとしても、それが性（性欲）＝人間の真実として「文学」的に見出されてゆくには、様々な場の力学が働く。自然主義文学が〈性〉＝「真実」の告白という枠組みを強化したことは疑いないが、それだけではない雑多な欲望も自然主義文学は喚起した。それは、「性欲」への関心であろう。一九一〇年前後、自然主義文学は「性欲」という新しい関心事を表現する方法を読者に提供してきた。

近代日本文学において自己の身近な性的体験を「赤裸々」に描くことを可能にした自然主義文学は、田山花袋「蒲団」を嚆矢として、「赤裸々な自己」を告白＝描くことが文学において目標とされ、文学作品において「性的現象」とは単なる素材ではなく、〈性〉という個人的なこと、書くことがばかられたものを描く、という理論構築によって、〈性〉を語る＝主体＝作者を立ち上げることもあった。

問一 傍線部①について、自然主義文学における「旧套打破」とは一般的にはどのようなことを言うか。説明しなさい。

問二 傍線部②「抑圧によつてはじめて存在させられた性が書かれた」とはどのようなことか。この一節全体を踏まえて説明しなさい。